

「環境問題に取り組むための移動現象・物質収支入門」正誤表

(2015年2月23日現在)

ページ	該当箇所	誤	正
1	(b)1行目	有害物質を煙を	有害物質を <b>含む</b> 煙を
3	(1.3)式	$C(x, 0, H_e) = \frac{Q}{\pi\sigma_y\sigma_z u}$	$C(x, 0, H_e) = \frac{Q}{2\pi\sigma_y\sigma_z u} \left\{ 1 + \exp\left(-\frac{2H_e^2}{\sigma_z^2}\right) \right\}$
24	(2.23)式	$Q = \frac{\pi}{4} \left(\frac{d}{100}\right)^2 \frac{1}{3600} v$	$Q = \frac{\pi}{4} \left(\frac{d}{100}\right)^2 3600 v$
30	3.3節7行目	媒体の質量フラックスは	媒体の <b>流量は</b> $\rho Q$ 、質量フラックスは
33	4行目	比熱 $\gamma$ [J/kg K] × 温度 [K] に 質量・・・	比熱 $\gamma$ [J/kg K] × 温度 <b>T</b> [K] に質量・・・
33	例題 3.6 の前	(文章を追加)	<b>36 ページで説明するように、温度は熱の強さであり、ゼロがない。したがって、式(3.24)の表現は厳密には正確でなく、室温などを基準とする「熱量の大きさ」と理解してほしい。</b>
38	(3.38)式	$2 \text{Al}_2\text{PO}_4(\downarrow) + 3 \text{SO}_4^{2-}$	$2 \text{Al PO}_4(\downarrow) + 3 \text{SO}_4^{2-}$
44	12行目	流体 <b>粒子</b> の滞留時間	流体 <b>分子</b> の滞留時間
53	下から 3 行目	VS とは Volatile Solid の略であり・・・	<b>TS は Total Solid</b> , VS は Volatile Solid の略で・・・
76	(6.10)式の上	熱移動 <b>フラックス</b> は流れ・・・	熱移動 <b>量</b> は流れ・・・
99	18行目	流入 <b>流量</b> 、流出 <b>流量</b> の差	流入 <b>流量と</b> 流出 <b>流量</b> の差
142	11.1.1項3行目	目的とされていることが多い系の物質収支・・・	目的とされていることが多い。 <b>系の物質収支</b> ・・・
152	表 11.2 タイトル	ごみ種別の組成と収集量	ごみ種別の組成 <b>[%]</b> と収集量
165	3行目	月、曜日 <b>が</b> 得られる	月、曜日、 <b>日</b> が得られる
174	1行目	第 4 項に	<b>右辺第 3 項</b> に
187	例題 9.3(b)		直線は <b>(a)</b> と同じ

以上